

反復着床障害患者における子宮内細菌叢と治療についての検討

小柳良子, 小林 正知, 関和 瞳, 石崎 健奨, 髭 友希, 山下 千波, 上田 尚美, 森中 美友, 川本 真, 佐々木真紀, 羽瀨さゆき, 桑原聖子, 濱田亜紀, 園田桃代
園田桃代ARTクリニック

【目的】

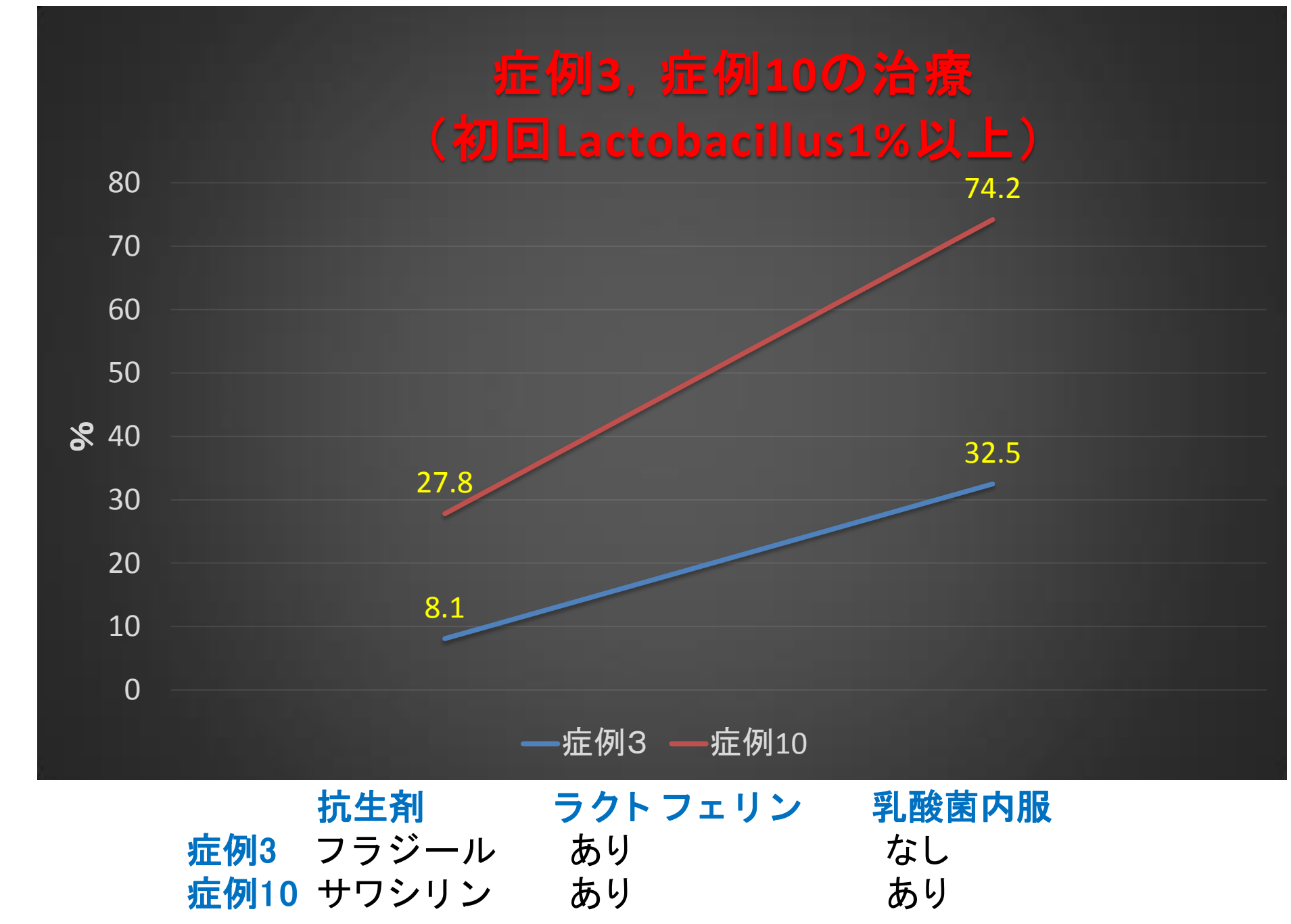
Lactobacillusを含めた子宮内細菌環境が着床率や生児獲得率に影響を及ぼすとされるが未だ確立された治療法はなく各施設に委ねられている。反復着床障害における子宮内細菌叢と治療効果について検討した。

【方法】

2018年12月から2019年10月の期間に胚移植3回以上の反復着床障害の患者27例に対し次世代シーケンサーを用い子宮内細菌叢検査を行い後方的に検討した。

初回検査結果まとめ

- 反復着床障害症例の51.8%にNLDMを認めた。
- NLDM群にてBifidobacterium優位であった2例を除く12例中7例(58.3%)はLactobacillus率1%未満であった。
- NLDM群にて検出された細菌はGardnerella42.8%, Streptococcus28.5%, Prevotella14.2%と高かった。

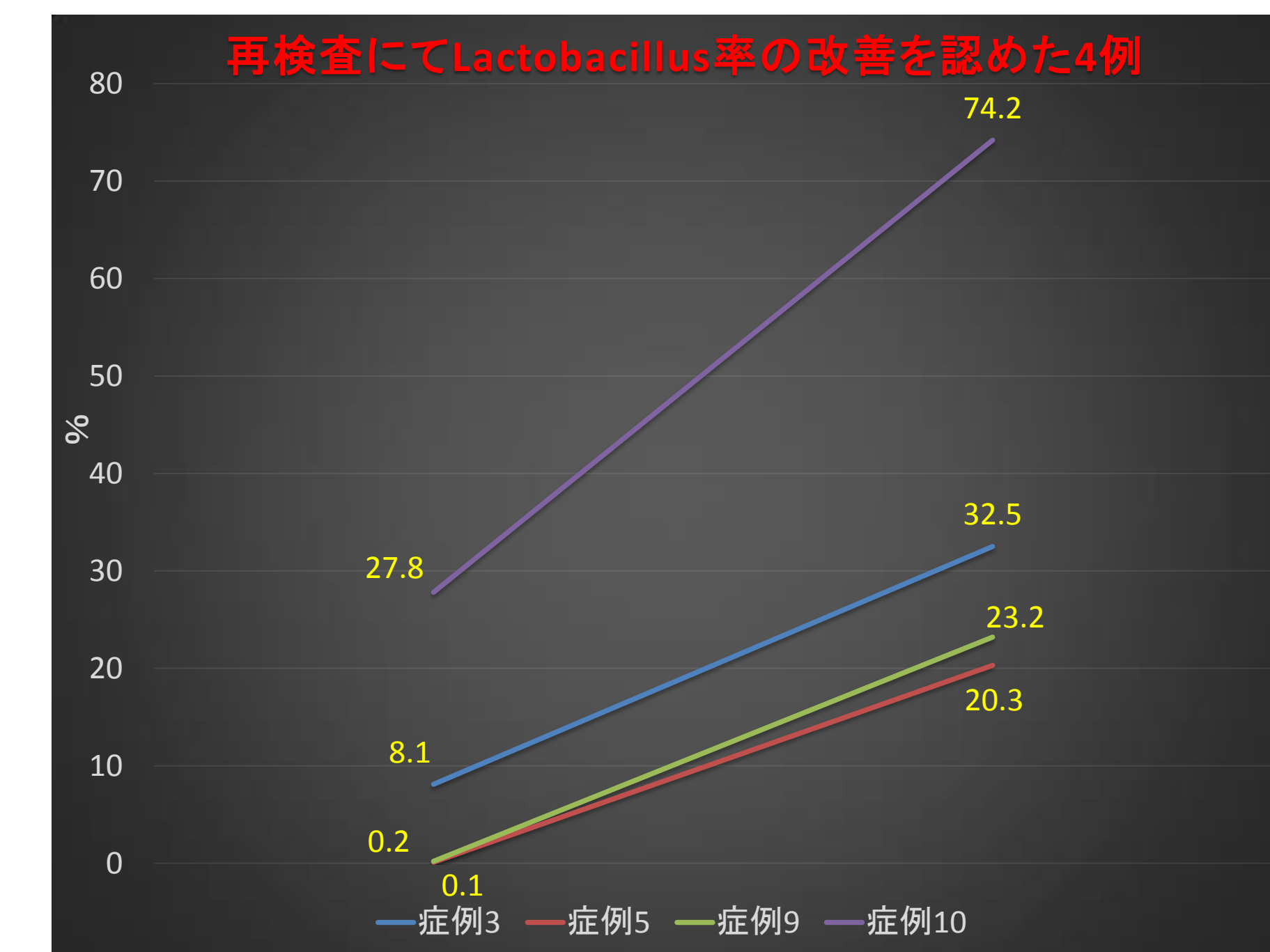
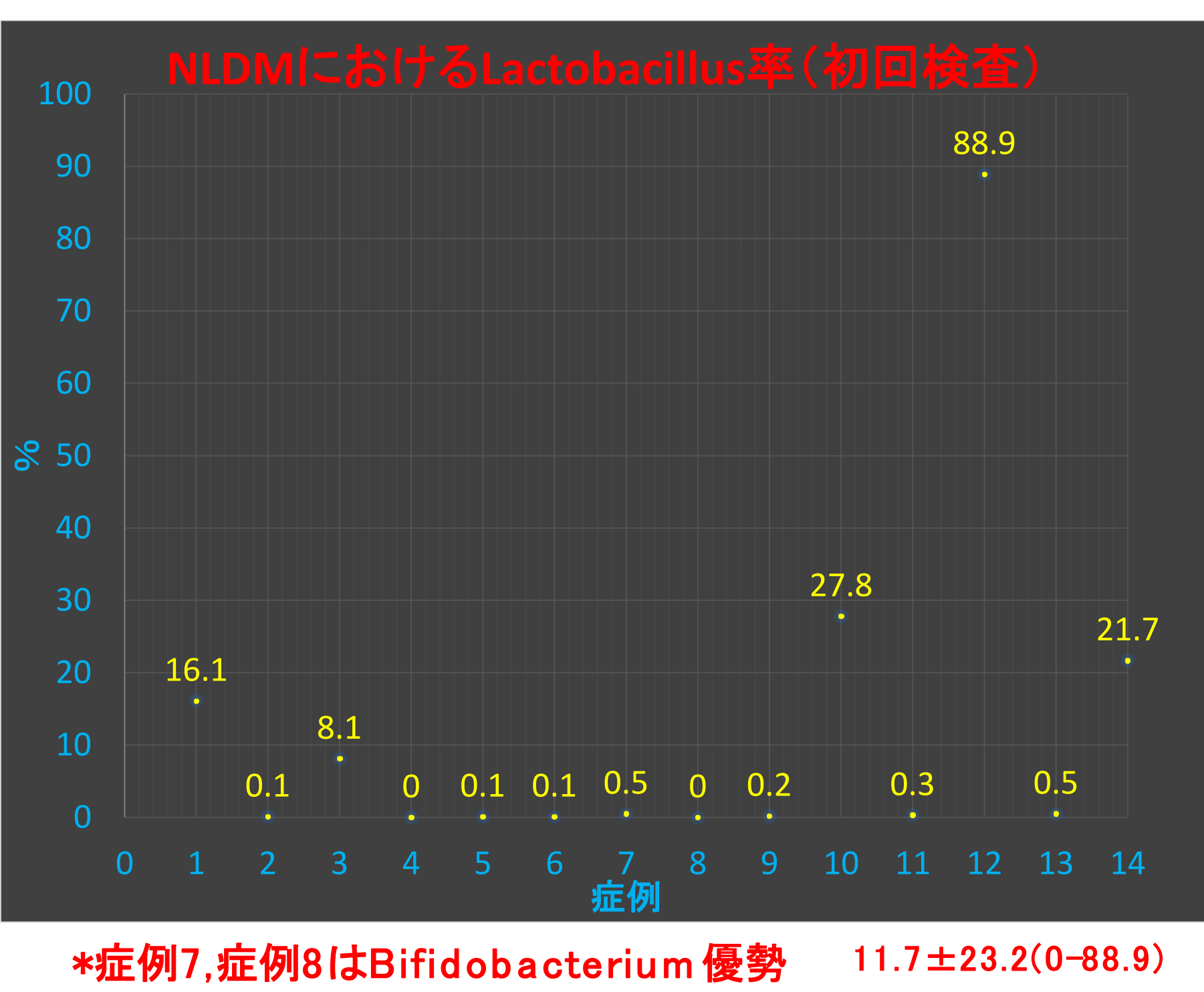
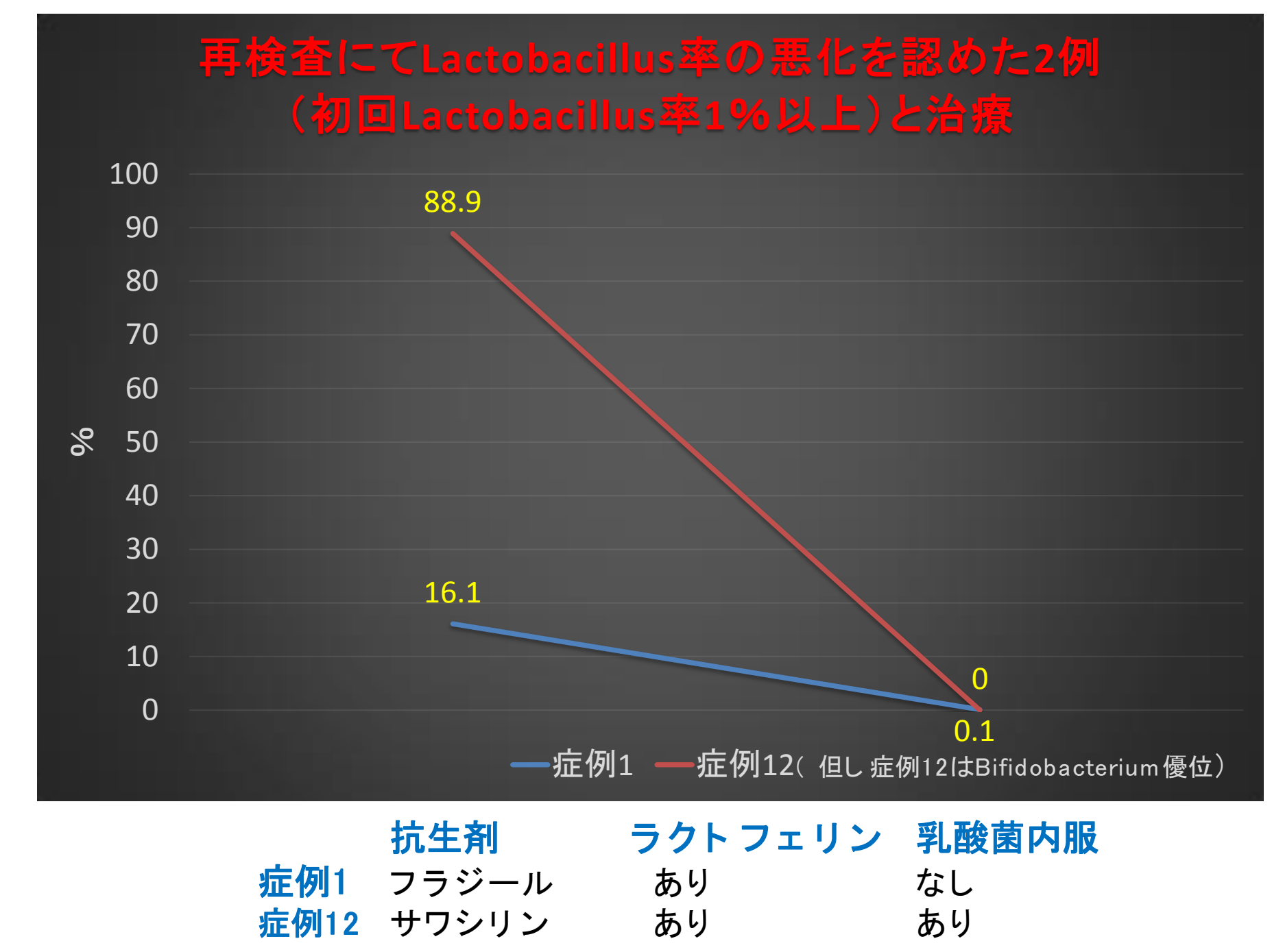
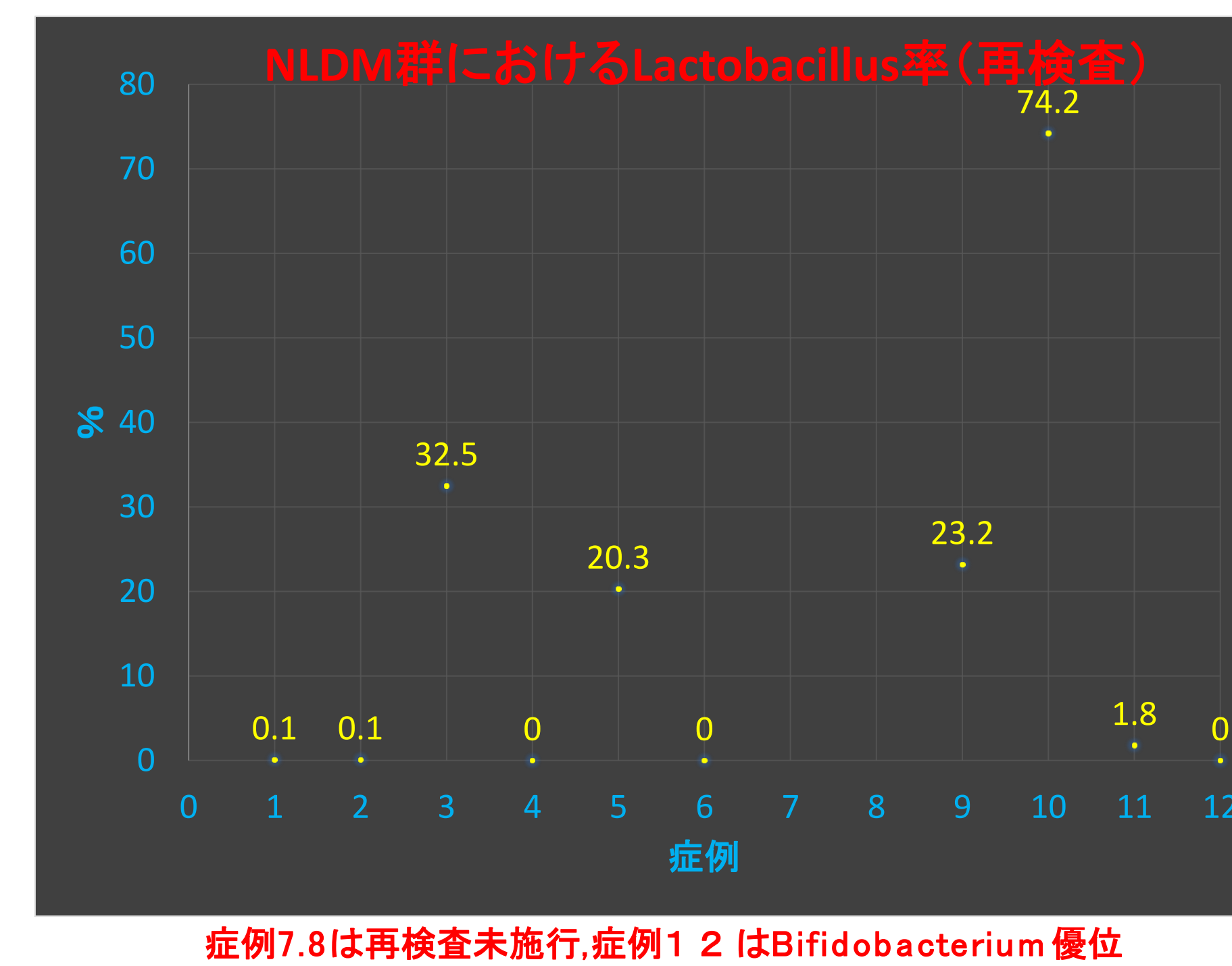
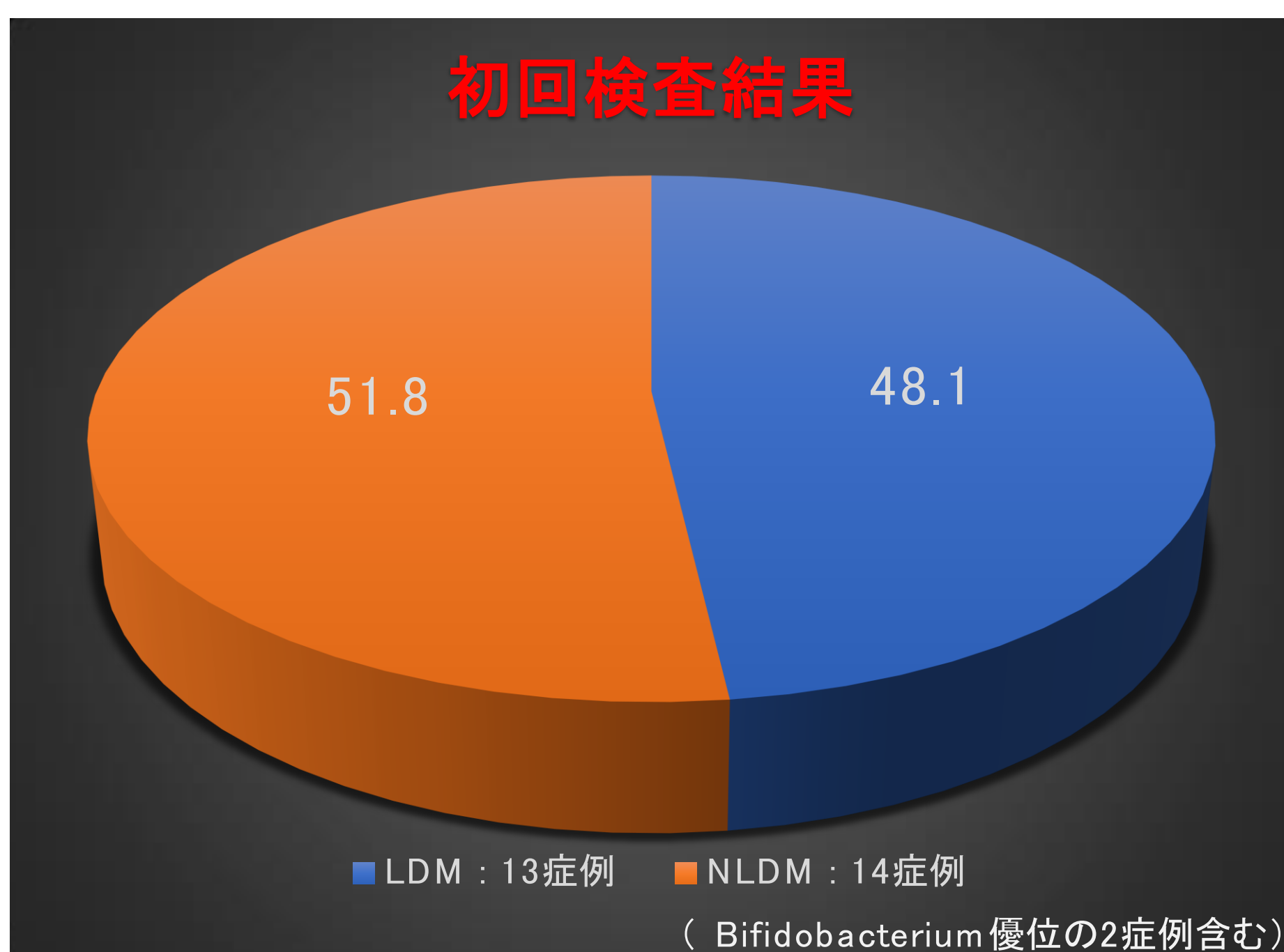
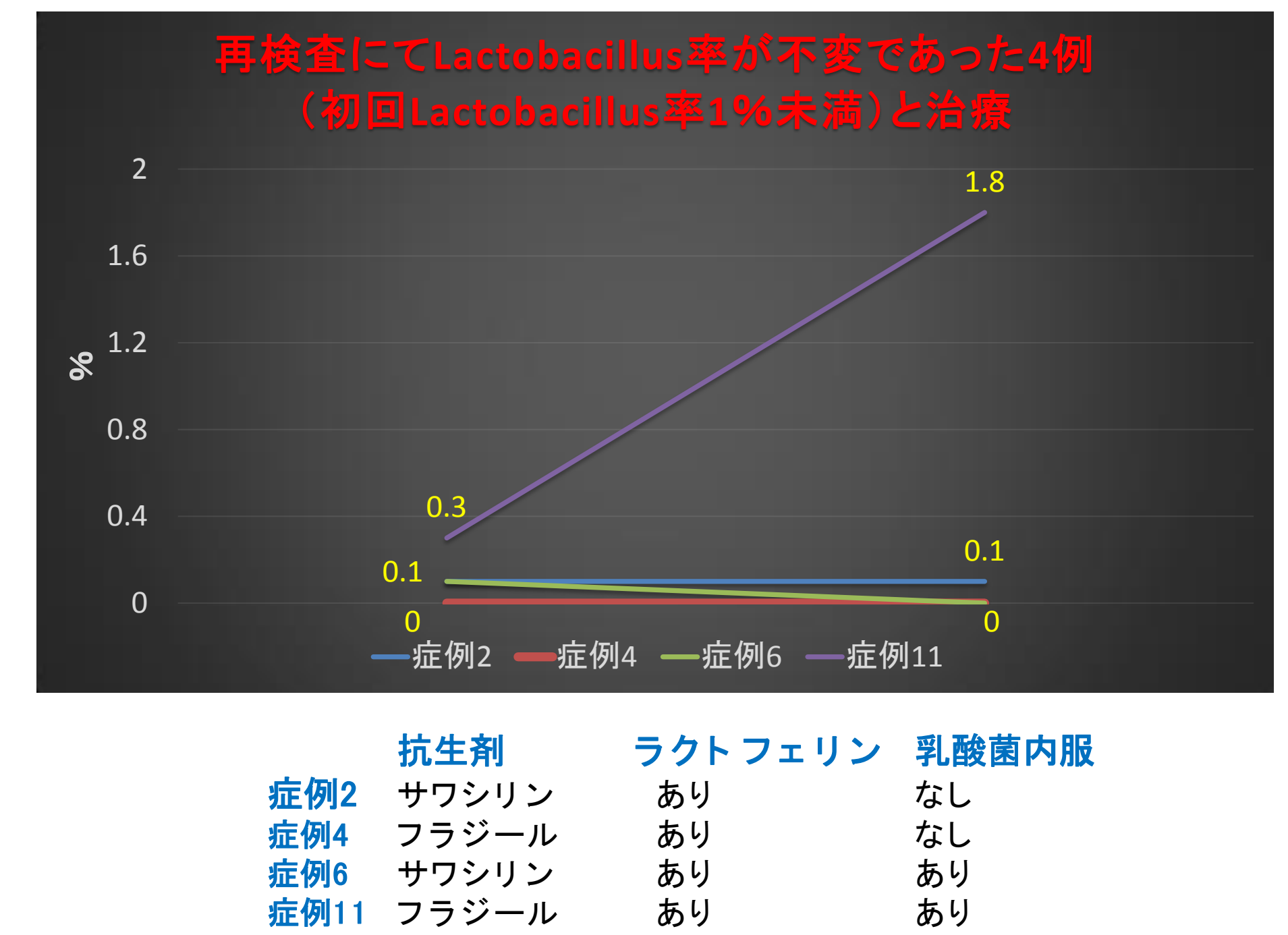
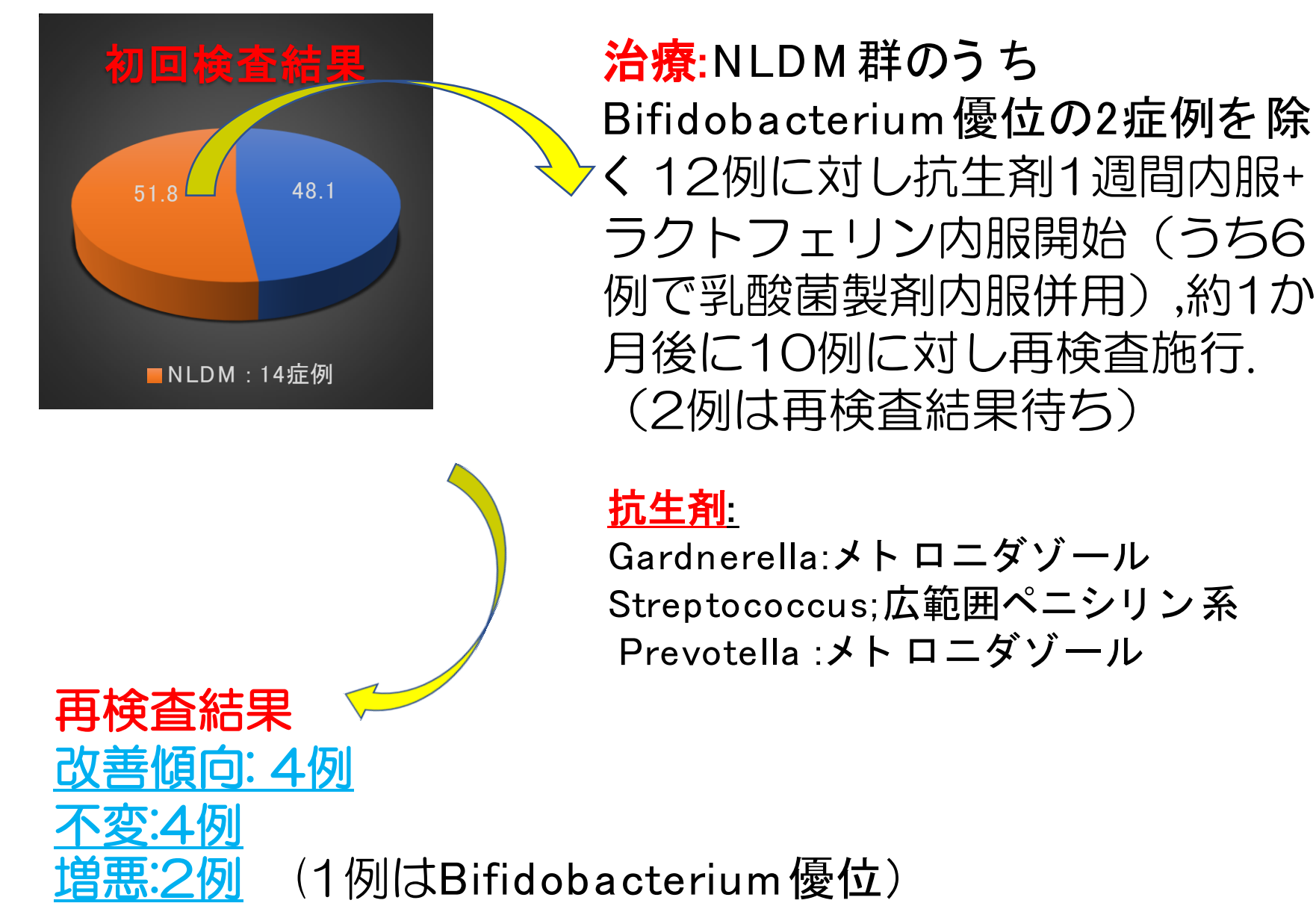


*27症例42周期に検査施行

*平均年齢: 37.0±3.4(31-43)

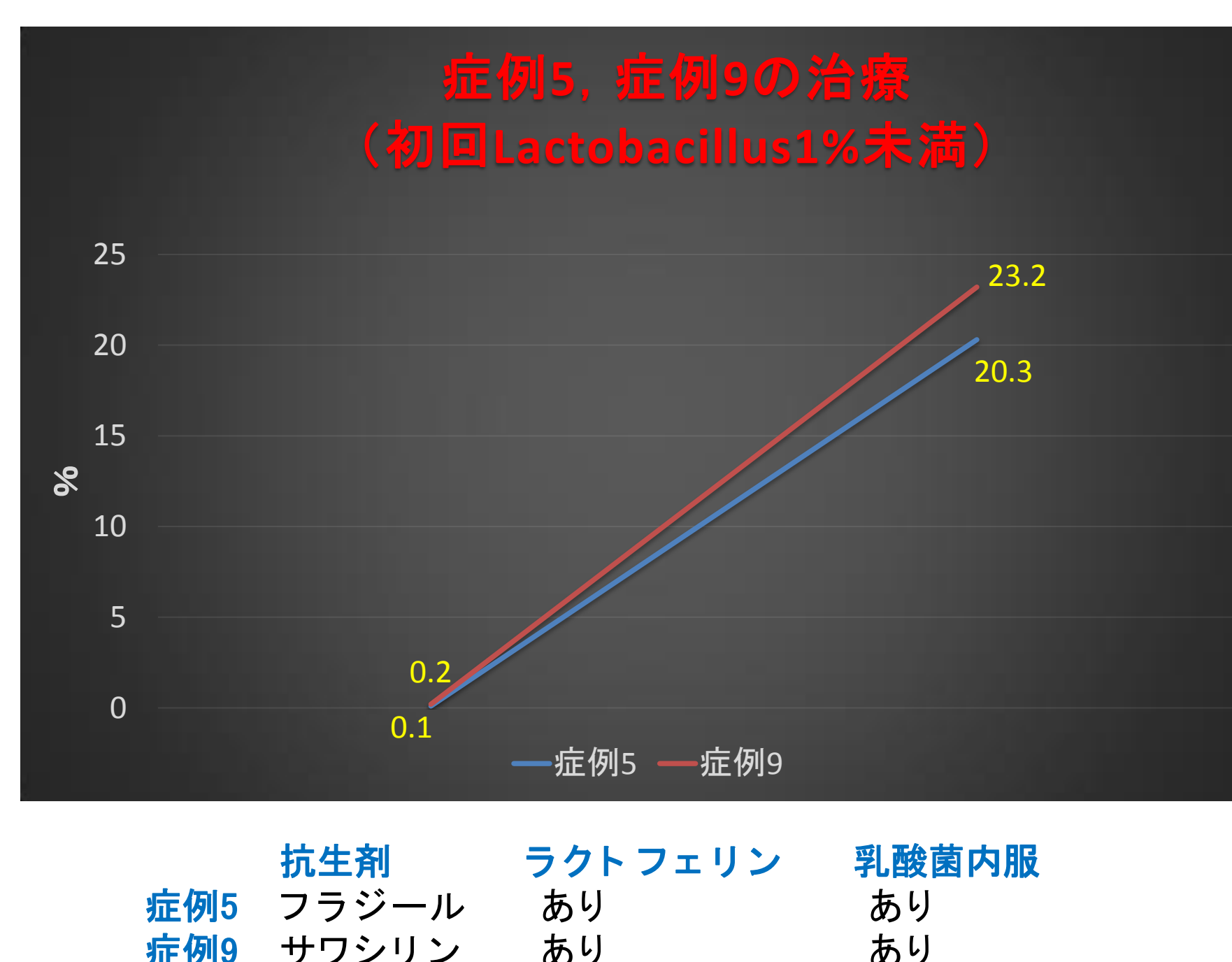
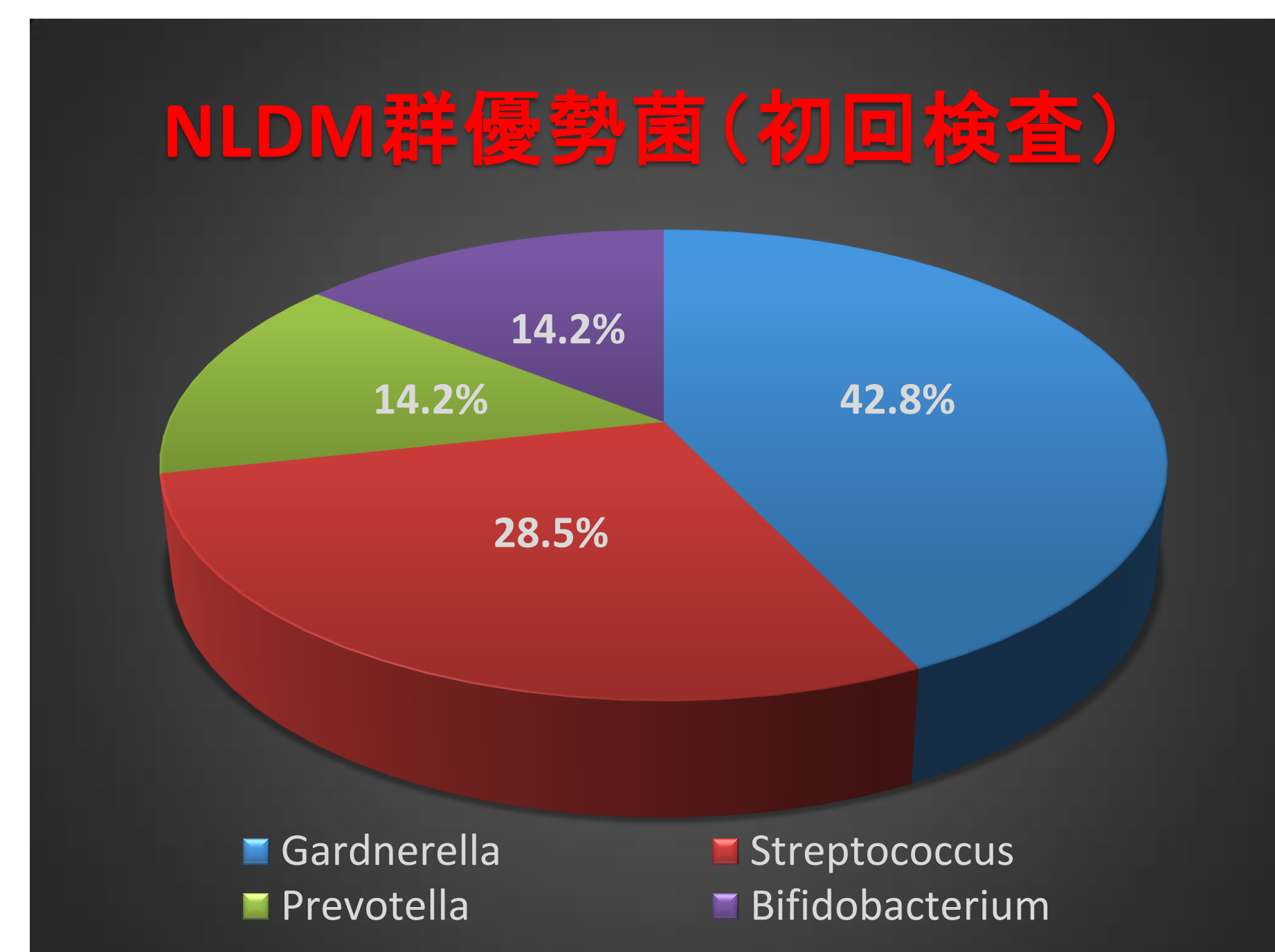
*内膜採取月経周期: 15.9±3.4(6-25)

*PIPETTE IV (MedGyn Products Inc), YUINOBRUSH® EM(ニプロ株式会社)を用いて全例子宮内膜より検体採取し全例解析可能であった。



初回検査 Lactobacillus率	Lactobacillus率改善例/乳酸菌製剤内服あり	Lactobacillus率改善例/乳酸菌製剤内服なし
1%以上	1例/2例	1例/2例
1%未満	2例/4例	0例/2例
改善率	50%	25%

*改善のなかった1例はBifidobacterium優位



再検査結果まとめ

- 再検査にてLDMまで改善した症例はなく, 6例(60%)はLactobacillus率1%未満であった。
- 乳酸菌製剤の内服治療を行ったのは6例でLactobacillus率1%以上の群の50%, Lactobacillus率1%未満の群の50%で再検査にてLactobacillus率の改善を認めた。
- 乳酸菌製剤の内服治療を行わなかったのは4例で, Lactobacillus率1%以上の群の50%で改善を認めたが, Lactobacillus率1%未満の群では改善例はなかった。

結論

反復着床障害患者においては51.8%がNLDM群であり, 治療には今回抗生剤, ラクトフェリン及び症例によって乳酸菌製剤の内服を行ったが細菌叢改善には不十分な症例も多く, 今後乳酸菌製剤の投与経路も含めて考慮し再検討したい。

第64回日本生殖医学会学術講演会
利益相反状態の開示

筆頭演者氏名: 小柳 良子
所属: 園田桃代ARTクリニック

私の今回の演題に関して, 開示すべき利益相反状態はありません。